

法人	社会福祉法人光朔会 オリンピア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
法人設立より27年目となる2021年度は、社会福祉法人光朔会オリンピアにとって、新たな一步を踏み出す年である。新型コロナウイルス感染症の流行や、政治・経済状況の変化など、福祉を取り巻く環境が日々様変わりする中で、ニーズに応じた事業展開・サービス提供をすることが求められている。そのためにも、柔軟な発想力と大胆な行動力を兼ね備え、オリンピアの理念の実践に貢献することができる人材を安定的に確保し、その育成に注力していきたい。 また、我々の取り組みを多くの方に伝えるため、インターネットや新聞・雑誌等のメディアを活用したPR活動も積極的に行う。さらに、海外に目を向ければ、アジアの国々も急激な少子高齢化の道を歩み始めており、これまでの日本の経験やオリンピアの取り組みを伝えることにより、オリンピアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」に貢献をしていく。このように目まぐるしい変化を続ける社会状況に対応する為にも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことで、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。平坦な道のりではないが、常に初心を忘れることなく、新しいことにチャレンジし続けることができるオリンピアを目指す、新たな1年としたい。			
事業計画			
1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリンピアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。			
2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。			
3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリンピア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。			
4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。			
5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。			
6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。			
7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナム・シンガポールなどのアジアの国々との連携を密にし、世界の福祉の情勢の分析および情報発信を行う。			
8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。			

施設	特別養護老人ホームオリンピア	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 人材確保及び育成 4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す		
概要			
コロナ渦の影響により、施設や在宅支援における高齢者の支援について、感染対策の徹底とその対応に追われる1年が今年度も予測される。そのような厳しい状況の中、コロナで何も出来ないではなく、今、何が出来るかに如何にチャレンジしていくかが鍵になっている。福祉を取り巻く状況も激変する中、これまでの取り組みを振り返り、検証し、確固たるものにし、新たな一歩を踏み出すことが求められる。理念に基づいた「その人らしい」暮らしの実現の一助を担うべく、人材の育成・確保は勿論のこと、その仕組み作りにも注力する。地域との繋がりを生かし総合的な相談・支援の実施、地域に開かれた運営を継続していく。地域とともに歩み、成長していくことが出来る(福)光朔会でしか出来ない、人々の希望となるノーマライゼーション社会の実現へのチャレンジに取り組んでいきたい。			
事業計画			
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供: 入居者・利用者の皆様の「その人らしい生活」を大切にし、「今日1日オリンピアで過ごせて良かった」と思ってもらえる生活の支援を行う。理念と3つの約束を守り、ビジョンを持ち、日常生活の情報収集を行い、お一人お一人に誠実に向き合っていく。各々のニーズや課題を把握し「介護する側」と「される側」ではなく、幾つになっても一緒にチャレンジ出来るように寄り添える関係性を大切にする。ケアプランを軸として、他職種と連携の体制を整え、隠れたニーズを見落とすことなく、入居者皆様の生活の質を高めていく。その関りを通して、入居者の皆様と小さなチャレンジを継続することで、スタッフも幸せになれるような、「自己選択」「自主性」が発揮出来るような取り組みを大切にしていく。2. 財政基盤の確立: 入居者・利用者の皆様の満足度を高め、質の高いサービスを提供するために、安定した財政基盤の確立が必要である。2021年度の予算数値の達成、目標の利用率を達成することが経営基盤の強化、地域資源の活用に関わり、地域の高齢者の総合相談支援の拠点としての位置付けを担える理想と考える。具体的には特別養護老人ホームで年間98%の稼働率を維持する事で収益の安定、昨年度、コロナ渦による利用自粛で稼働率が下がったデイサービスの平均利用者数を25名以上確保までに回復し、その上で居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンターの各専門職を有する相談機関とチーム一丸となって運営出来、各々の事業所の持てる力を最大限活用し、より強固な財政基盤を構築する。予算執行に関しては、適切な予算管理に基づき、適正な人員配置や費用支出を資金計画に沿って効率的に行います。但し、不必要な支出や業務の省略可を図り、無駄や重複事項を削減し、生産性を高める。3. 人材を確保及び育成: 今年度は「魅力ある職場作り」に尽力する。常に質の高いサービスを提供させて頂く為に職員が切磋琢磨し成長、昇級出来る環境、自分磨きのための資格取得やチャレンジ出来る研修制度の整備、それをサポート出来る環境作りに努める。昨年度同様、学校訪問・キャリアセンター回りに加え、新たに地域ネットワークの掘り起こし、SNSを活用したベトナム人ネットワークの見直し等、常に情報網を張り巡らせ、人材確保を行った上での育成に尽力し、ケアの質の向上に努める。4. 地域ニーズに応えられる施設を目指す: 法人設立より27年目を迎え、withコロナの時代に新たな一歩を踏み出せるよう、あんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所の各専門機関で地域のニーズを汲み上げ、法人のミッションである誰もが「その人らしく」暮らす事が出来る社会を実現すべく、地域支援、相談窓口を展開する。開かれた施設を目指し、社会貢献に努める。			

事業計画

2021年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	谷口 裕亮
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 健全な施設運営 4. 専門性の高い人材確保と人材育成				
事業計画					
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供: 入所者、短期利用者様、お一人おひとりが望む生活を送って頂けるよう、「その人らしい」生活に合わせた適切なサービス計画を作成する。また、ご利用者様が楽しみにされている季節の行事や日々のレクリエーションを一層充実して行くことで豊かな施設生活を送って頂く。 2. 財政基盤の確立: 安定した収入を確保するために、特養入所者の定員50名を確保し安定した収益の確保を図る。そのためには入退所業務を速やかに行い、空きがない状況を確実にして行く体制を整えると共に、入所待の心身の状況を常に把握し、入退院にも迅速に対応する。短期入所については、定員16名を特養入所者の受け皿として自宅介護が限界になっている方等を積極的に受入ていき、高い利用率を目指す。 3.4. 健全な施設運営/専門性の高い人材確保と人材育成: 健全な施設運営を行うには、老人福祉法、介護保険法の法令根拠に基づきスタッフの指導や研修等を積極的に行って行く。スタッフ一人ひとりが法人理念や3つの約束に基づいたケアを実行できる人材になれるよう支援を行う。人材の確保については、EPAを継続すると共に、介護・社福等の学校と交流を増やし専門性の高い人材を確保する。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	金谷 佐織
事業目標	1. 財政基盤の確立に向け新規利用者の獲得をめざす 2. 質の高いサービス提供に努める 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
1. 財政基盤の確立に向け新規利用者の獲得を目指す:2021年度予算達成に向け、コロナ渦の利用自粛による22名まで下がった平均値を月27.2名まで回復を目指す。あんしんすこやかセンター、居宅介護支援事業所への営業活動の継続、利用者の希望を実現する企画、困難事例の積極的な受け入れ等、長年の実績と経験を活かした動きと、コロナで出来ないではなく、創意工夫したチャレンジにより、年間延べ6,500名以上を目指していく。					
2. 質の高いサービス提供に努める:きめ細やかなサービスを展開し、業務内容およびリスクマネジメントの情報共有を徹底する。理念に基づいたケアの実践、利用者だけでなく、家族への支援も含めてお声掛けしていく。看護師による健康相談や機能訓練の機会も積極的に設け、一人でも多くの方の在宅での生活の継続を支援していく。					
3. 人材の確保・育成:オリンピアの目指す新しいケアを実践出来るよう、自ら考え、判断し、適切な行動をとることが出来る人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。新人職員にはお世話係をつけたOJTの実施や、横の繋がりを活かした他部門での研修、音楽療法・ヨガ教室・絵手紙教室の外部講師との連携や地域と繋がりを活かした行事も学びの機会としている。職員同士の共通理解を図り、お互いに成長しようという環境づくりに努める。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 質の高い居宅介護支援 3. 地域、他事業所との連携 4. 介護支援専門員の資質向上 5. 認定調査員の資質向上				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間955件、要支援者件数年間135件を目標とする。新規利用者を獲得する事で収入の増加を図る。認定調査においては圏域外や他市からの調査依頼も受けるようにする。					
2. 質の高い居宅介護支援:利用者宅を訪問し、状況把握、モニタリングを行う。住み慣れた地域で在宅での生活が安全に継続できるように援助し、見守る。主任介護支援専門員による相談できる環境を確保し、介護保険外のサービスも組み入れていく。また、「その人らしく」暮らす事ができるよう支援する。					
3. 地域、他事業所との連携:研修などに参加し、あんしんすこやかセンターや他事業所との連携を図り、情報収集を行う。また、他事業所と連携を図る事で困難事例も対応できるようにする。					
4. 介護支援専門員の資質向上:積極的に研修に参加し、情報収集を行い、利用者の自立支援の観点に立った支援が行えるようにする。					
5. 認定調査員の資質向上:認定調査の研修に参加する。また、他市の調査依頼を受ける事で情報収集を行う。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピア	部門	地域包括	報告者	太田直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族から信頼され安心して相談ができる窓口として、さらに認知・評価される。 2. 高齢者と地域(社会資源)を繋げ、認知症になっても安心して住むことのできる地域作りを支援する。				
事業計画					
1. 圏域内各種事業所への訪問と、圏域内各地区民児協定例会の出席や地域の高齢者支援活動を通して、高齢者介護に関する情報提供を継続し、センターの認知度をさらに広げる。					
2. 地域ケア会議を開催し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、高齢者に関する地域の困りごと等の解決方法を関係者間で話し合い、地域包括ケアシステムのネットワーク構築に寄与する。					
3. 認知症の人にやさしいまちづくり条例に関連して、認知症サポーター養成講座の開催や認知症サポーター店の新規開拓、声かけ訓練の実施等を通じて、認知症理解や認知症支援の担い手が増えるように働きかける。					
4. 民生委員や老人会、婦人会など、高齢者に関わる地域資源との関係や、ネットワークの構築をさらに進める。					
5. フレイル予防に関する啓発活動やプログラム活動を支援する。					
6. 虐待防止や後見人制度等、高齢者の権利擁護、特殊詐欺に対する防犯についての啓発をする。					
7. 以上のことができる職員の資質向上とコミュニケーション能力の向上など、人と人とを結ぶ仲介者としての役割が遂行できる能力や情報収集能力、対人支援知識および資格習得のための研修受講をする。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア呉	部門	居宅介護支援事業所	報告者	栗田 実
事業目標	1. 事業の経営安定 2. 地域作りへの貢献				
事業計画					
1. 2019年1月より事業再開した呉居宅であるが、再開後2年が経過し、現在要介護12名、要支援47名の支援をしている。目標の要介護20名には達していないが、要支援の利用者からの要介護移行や利用者の家族、今まで付き合いのある地域包括支援センターや病院の地域医療連携などからの紹介がコンスタントにある。 今年中には目標を達成し、少しでも事業の経営安定を図りたい。					
2. 現在、事業所の所在地である中央地区と呉市東端部である川尻・安浦地域を中心に、呉市内を広域的に活動している。全国的なコロナウィルス感染により、集団感染もあり、利用者宅の訪問や各事業所・医療機関の営業訪問も思うようにならず、感染の恐怖を身近に感じながらの活動となった。中央地区、川尻・安浦地域の包括との関係は良好で、複数の地域ケア会議や各種研修に向こうから参加を呼び掛けられるなど、徐々に地域の中で信頼関係を構築。また、その他の地域包括支援センターや病院の地域連携からも困難事例をはじめ、いくつかの新規相談を受け、実際に支援を開始するなど、少しずつ地域への信頼を深く、広くすることが出来ている。今後もウィルスの収束状況を見ながら、地域になじんでいけるようになお一層の努力を惜しまず続けて行きたい。					

施設	グループホーム　オリンピア灘	報告者	管理者　長谷　順二
事業目標	1. 利用者の生活の質の向上　2. 認知症ケアの拠点としての地域交流　3. 職員の資質向上 4. 財政基盤の確立		
概要			
19年目を迎えることになるオリンピア灘では、地域密着事業として地域との結びつきを大切にしながら活動している。生活の主人公はご利用者であるというオリンピア灘の理念を実践し、利用者ひとりひとりに「その人らしさ」を大切に生活をしていただく。パーソンセンタードケアを基盤とした法人理念に基づいたケアを実践すべく、スタッフの力量に応じた学びを受けることができるように支援していく。新しく入職するスタッフにはOJTを行い、全体の力量を底上げするため指導や相談をしていく。介護報酬改定の年度であり、目まぐるしく変化していく制度に対応し、オリンピア灘が認知症ケアの拠点として推進していく。コロナ禍で苦労したことをバネにし、一層の飛躍を遂げる一年としていく。			
事業計画			
1. 利用者の生活の質の向上:「生活の主人公は利用者ご本人」であり、毎日をその人らしく充実した生活を送れるようにお手伝いさせていただく。そのため、スタッフ全員が「オリンピアの理念」「オリンピアの3つの約束」を根拠としたノーマライゼーションの実現を行う。利用者の希望や思いをくみ取り、不安や悲嘆に寄り添い、オリンピア灘に入居いただいたからこそ、再び、夢や思いにチャレンジしていただく支援を行う。ご本人、ご家族と共に作り上げるケアプランをケアの軸として、社会資源の活用、地域との結びつきを強め、これまで通りの生活をしていただく。ご本人とスタッフが協力してチャレンジを続けていく。 2. 認知症ケアの拠点としての地域交流:入居者が地域との結びつきを築いていただき、地域のお困りの方へオリンピア灘を知っていただく。お困りになられた際は、頼っていただける存在であるように地域交流を進めていく。 2020年度はコロナ禍の特殊な生活となり、散歩や買い物といった日常なことだけでなく、地域行事の開催も困難であった。地域との情報共有を行い、地域ケア会議や認知症講演会など、認知症ケアの拠点としての活動を行いたい。地域内だけにとどまらないが、見学を積極的に受け入れ、介護や認知症の相談を受けていく。法人内外の資源を活用して、気軽に立ち寄ることができるホームとなっていく。 3. 人材の育成:職員の力量に合わせた学びを行うため、法人内外の研修に積極的に参加する。内部研修として行う高齢者虐待防止研修等だけでなく、法人のトップから指針を示していただく理事長研修を受講したい。 新しく入職したスタッフにはOJTを行い、中堅職員にはユニットリーダー育成研修や認知症実践者研修など、力量に応じた学びを受講していけるように支援する。研修が日々の成長に繋がり、入居者の生活の質が向上していくと考え、予算をとった上で計画的な職員の成長、資格習得などを目指していく。 4. 財政基盤の確立:介護報酬改定の年度を迎え、加算を適正に取得していく。収入と支出について、積算を行い根拠のある数字として予算組みを行う。まず、「利用率の安定」「入居待機者の確保」を高いレベルで行うことが収入の安定に繋がる。収入を安定させることで、人件費や研修などの攻めの支出を行うことができる。 新たなチャレンジをしていくために多彩な人材を成長へ導いていくため、支出は不要なコスト削減は行いつつ必要な部分にしっかりと予算を回せるように計画していく。収支のバランスを考え、目標にたどり着いていく道筋を計画的に進みたい。			

事業計画

2021年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	長谷 順二
事業目標	1.入居者が主人公となる生活の構築 2.職員のスキルアップと育成				
	3.地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4.財政基盤の確立				
事業計画					
1.入居者が主人公となる生活の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を日々実践する。これまでの生活を入居後も続けていただくとともに、オリンピア灘へ来ていただいたからこそできる人生のチャレンジ、日課や趣味を再び充実していただく支援をさせていただきます。					
2.職員のスキルアップと育成:各職員の力量に応じた研修に参加していけるように支援する。内部研修、法人研修、外部研修への参加を促し成長を目指す。職員のスキルアップ、キャリアアップを目指し資格取得を計画的に行う。公募に対して挑戦していく職員を育てていく。					
3.地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:2020年度はコロナ禍による特殊な1年となったが、地域からの見学を積極的に受け入れて、介護や認知症の相談を受けていく。講演会や研修、地域会議にできる限り参加していき、地域の困りごとに対してオリンピア灘としてのアプローチを続けていく。					
4.財政基盤の確立:利用率の向上、入居待機者の確保を行い、収入を安定させていく。収支を安定させた上職員の雇用や研修などの支出を強化していき、骨太な職員体制を整えていく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	長谷 順二
事業目標	1. サービスの質の向上 2. 財政基盤の確立				
事業計画					
1. サービスの質の向上:認知症対応型として、グループホームの共用型であることを最大限に発揮する。大規模 デイサービスでは馴染むことができず、利用を相談されるケースが続いている。グループホームの入居者と行動 を共にする生活の延長としてのデイサービスにて、介護サービスを受け入れていただく窓口となる。また、小人 数だからできるきめ細やかなサービスを提供していくために、担当のケアマネジャーを中心とした在宅サービス の継続を目指していく。ご家族からの認知症ケアに対しての相談を受けながら、住み慣れたご自宅での生活を 継続していただき、状況によってはグループホームや法人の入居施設へと安心して繋いでいける役目を果たして いく。デイサービスがオリンピア灘の窓口となるように活動していく。 2. 財政基盤の確立:年間利用2.0/日以上を目的としている。2020年度は、コロナ禍の影響が強く新規利用者 の獲得が困難であったが、体験利用の促進により徐々に体制が整いつつある。事業所本体であるグループホー ムを財政的に支援していくためにも、一定数以上の利用者は維持していく。そのために、グループホームと一体 となって研修なども行い、職員の資質向上により事業所としての価値を高めていく。					

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 宰
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要			
Withコロナ時代を迎えた今、2021年度はオリンピア兵庫が今後の方向性を定める重要な年度となる。 これまでの取り組みをふり振り返り、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一歩を踏み出すことが求められる。 そのため、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という設立の理念にもう一度立ち振り返り、ケアのあり方、組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけではなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるようにする。固定観念にとらわれることなく、常に新しいことへのチャレンジを続け、日本の福祉をリードする立場であり続けたい。			
事業計画			
1. 「小規模多機能ケア」の確立：利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。 2. 広報活動の強化：「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的にプレスリリースを発出するほか、地域へのポスティング、戸別訪問を実施する。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し、人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。 3. 財政基盤の確立：安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速な対応を行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的に変更することにより、効率的な運営を目指す。 4. 新規プロジェクトへの挑戦：地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。 5. 人材の育成：オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来のマニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の間以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。			

事業計画

2021年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	西塚 裕真
事業目標	1. ケア理念の遵守 2. 財政基盤を確立し地域に密着した運営を行う。 3. スタッフの資質向上をめざす。				
事業計画					
1. ケア理念の遵守					
・ユニット毎のビジョンを明確にし、生活の場にふさわしい環境作りを行う。					
・“生活の主人公はご利用者本人”と言うことを常に意識し、パーソンセンタードケアの実践を行う。					
・ご利用者の個別理解に努め、ご本人の力を最大限に発揮していただけるお手伝いをする。					
2. 財政基盤を確立し地域に密着した運営を行う。					
・運営推進会議の内容の充実をはかり、参加者を増やす。					
・年間稼働率98%を目指す。					
3. スタッフの資質向上をめざす。					
・派遣を使うことなくオリンピアにふさわしい正社員の獲得を目指す。					
・ケアのみならず、マナー、接遇に対しても学ぶ機会を持ち、内部、外部に対しても気持ちの良い環境をつくる。					
・内、外部の研修を充実させ資格取得者を増やす。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	尾崎 真
事業目標	1. ショートステイとしてコロナ禍における役割を担う 2. 法人内の中継地点としての機能を果たす 3. 人材確保と育成を図る				
事業計画					
1. コロナ禍において心配されている高齢者施設におけるクラスター感染や日々の様々な場面において影響を及ぼしている新型コロナウイルス。いつも通っている施設にコロナ陽性者や濃厚接触者などが発生した場合、介護と仕事を両立される方の職場内での感染リスクといった色々な場面で介護に不安をもたらしている。そういった万が一の場合でも全室個室であるという利点を活かした受け入れやケアの実施が必要とされることが想定される。介護でお困りの家庭の救いとなるよう柔軟な対応を行う。					
2. 法人内の施設には多くの入所希望の方々がおられ入所の時を待たれている。その中には在宅での生活が困難で早急な入所を要する方々もおられる。施設に入りたいがすぐに入れないという不安に対して入所までの期間を安心して待つことが出来る場所として又入所の際はスムーズに事が運ぶよう中継地点としての役割を全うする。					
3. 人材育成に関しては成長の場を提供する。まずは内部研修の充実化を図り、それにより介護の基礎を学ぶ。次に外部研修の参加を促す。これからの介護職員としての目標にビギナークラスは初任者・実践者研修の受講。スタンダードクラスには介護福祉士取得といった資格取得に際してのフォローが出来る体制、環境作りを図る。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピック兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材募集育成の強化 4. 新たな保険外事業への挑戦				
事業計画					
1. 2021年度収入予算の達成へ向けた利用者確保					
区役所が主催する地域ケアネット活動を通じて地域ケア会議のメンバーとして活動を行う					
本体事業を補強するための保険外事業を積極的に受入、実施する					
2. 地域との密着					
地域密着型として運営推進会議等を通じて、地域の介護拠点としての地位を確立する					
3. 人材募集育成の強化					
法人内外他事業所への派遣研修を通して知識、ケアのさらなる向上を目指す					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う					
4. 保険外事業への挑戦					
初任者研修、サポーター養成研修等の経験を活かした保険外事業への挑戦を続ける					
人材育成とも連携した形で新たな事業に活かせるものとする					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピック兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業計画					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践: ヘルパーによる支援がただの家事労働の延長ではなく、家事援助を通じた生活密着型の支援であり、それによってご利用者はその日常生活を回復し、みずからの生活イメージを取り戻して、自らの生活設計に取り組むことを可能にするようなケアを目指す。					
2. 他部門との連携強化: ヘルパーによる支援は「関係性」の中で展開される。同じ施設内のサービスを使って頂くことで、情報共有もスムーズになり、顔を合わせる機会も増えるため、安心してサービスを受けて頂くことが可能になる。居宅系サービスの3部門が協力し、兵庫全体で総合的なサービス提供を行う事で、ご利用者により安心して、サービスを利用していただく。					
3. ヘルパーの養成: 定期的実践レベルでの研修を実施し、現場でのケア・サービスの質の向上をはかる。 また、所属するヘルパー一人ひとりの特性を活かし、より専門性の高いケアを提供出来る体制を整える。					
4. 保険外サービスの具体化: 新総合事業開始が目前に迫っている。介護報酬に頼らない収入源の確保とともに、"オリンピックにしかできない"ケア・サービスの提供を行っていく。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしての資質向上 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者、家族の尊重				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:2021年度の収支差額でのプラスを達成し、法人の財政基盤の確立に貢献する。					
2. 地域、他事業所との連携強化:地域住民、関係機関、病院、あんしんすこやかセンター、他のサービス事業所との関係づくりを常に行い、利用者が自宅での暮らしを安全に継続していけるように努力する。地域資源の発掘と活用に取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。多職種連携を意識し、支援を実施する。					
3. ケアマネジャーとしての資質向上:外部、内部を問わずに研修会、勉強会へ積極的に参加して、ケアマネジャーとしての資質向上に努める。介護保険制度の情報も意識して収集を行っていく。					
4. 新規利用者の獲得:要介護、要支援の利用者を積極的に受け入れる。担当が可能な件数を維持して、より多くの方に居宅介護支援を提供し、地域社会に貢献する。					
5. 利用者、家族の尊重:利用者、家族の希望する生活が維持できるよう、毎月実施するモニタリングによって適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、利用者、家族との相談を実施して柔軟な対応を行っていくようにする。					

施設	幼保連携型認定こども園 オリンピア都こども園	報告者	園長 三好美佐子
事業目標	1. オリンピア・都こども園の理念、理解の徹底 2. 安全・安心な環境徹底の充実 3. 地域子育て支援の充実 4. 教育・保育専門職としての資質向上 5. 関係団体との連携 6. 人材の定着と確保 7. 次世代育成		
概要			
2020年度はコロナ禍にあり、保育環境・保育のあり方・子どもの健全な成長について根本から考え直す一年となった。2021年度は当たり前を当たり前と思わず、その時々に応じた柔軟な姿勢、ベストを尽くすために検討を重ねるチーム力、スピード感をもった決断、対応ができるようにしていきたい。コロナ禍にあっても子どもたちの成長が脅かされることなく、一人一人の子どもたちがその子らしく、心も身体も安心してのびのびと過ごせるようにしっかりと支援していきたい。また、衛生面の徹底はこれからも大きな課題のひとつになる。清掃・消毒のいきわたった環境整備とともに、子ども・保護者にも自分の体を守るための健康教育をおこなっていく。 2021年度も子ども・保護者・地域の子育て世帯の良きパートナーシップとして質の高い教育・保育を提供していく。			
事業計画			
1. オリンピアの理念、都こども園の理念理解の徹底：子どもたちが自分らしく輝き生きる力を育む教育・保育を実践するために一人一人の子どもが中心にあり、より良い成長を支える良き職員集団として、理解・協力・切磋琢磨できる関係性を大切にする。 2. 安全・安心な環境徹底の充実：昨年度からの安全・安心な環境作りを今年度も徹底していく。清掃・消毒作業の徹底はもちろんのこと、子どもの活動に応じた保育室・園庭の使い方を工夫していく。また、年齢に応じた健康教育を充実させる。 3. 地域子育て支援の充実：一時保育利用児は年々減少傾向にあるが、子育て不安や緊急的なケースに迅速に対応していく。未就園児に向け、体験保育や給食試食会、園行事への参加、母子分離による母親講座等のプログラムの充実を図る。また、年々増えている園見学の内容を見直し、実際に見学に来なくても園について興味を持っていただけの情報の発信方法を考えていく。 4. 教育・保育専門職としての資質向上：経験年数に応じた役割、学ぶべき課題を明確にし、キャリアアップ研修の受講、関係団体主催の研修や研究大会へ積極的に参加する。職員間での学びを大切にし、疑問をすぐに解決できるよう園内研修の充実を図る。 5. 関係団体との連携：聖公会保育連盟、キリスト教保育連盟、神戸市私立保育園連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。子どもの成長の連続性を確保するため、小学校との接続、スタートカリキュラムを実践する。地域にある園として、地域の皆さまのご理解ご協力に感謝し、地域行事への参加、園行事へのお誘い、職員による地域清掃活動を引き続きおこなう。 6. 人材の定着と確保：近年、保育教諭・栄養士等の人材の確保が大変困難になっている。オリンピアを選んで働いている職員の定着のため、どんなことでも相談できる環境作り、一人ひとりがやりがいを感じられる職務内容を整えていく。人材確保に向けては、養成校との連携、実習生・ボランティアに対し、「子どもに関わることが楽しい」と感じられる丁寧な指導を通して、就職につなげていく。 7. 次世代育成：地域中学校・高校のトライやるウィーク、ワークキャンプ、ボランティアを積極的に受け入れることにより、子どもに関わる職のすばらしさを伝えていく。			

社会福祉法人光朔会

施設	高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西	報告者	施設長 櫻井 敬介
事業目標	1. 総合的な福祉活動の展開 2. 財政基盤の確立 3. 小規模多機能ケアの確立 4. 人材確保と育成(研修)		
概要			
オリンピア神戸西は開設より12年目を迎える。昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響により社会は大きく変わろうとしている。この時代の変化に対応しながら、オリンピアの理念に基づいたノーマライゼーション社会の実現、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会の実現を目指し、地域における福祉の拠点となるよう運営を行っていく。光朔会オリンピアとしての事業展開・サービス提供に取り組んでいき、新たなチャレンジをおこなう為にも収支の安定、利用者・待機者の確保、人材の確保・育成に力を注いでいく。 今後も地域に必要とされる施設であり続けるとともに、利用者・入居者の皆様だけでなく、オリンピア神戸西に携わるすべての人が輝ける施設を目指す。			
事業計画			
1. 総合的な福祉活動の展開：特別養護老人ホームの入所部門、小規模多機能ホームの通所部門、居宅介護支援事業所の在宅部門の3部門が協力し、ケアを必要とされる方に必要なサービスを提供させていただく。また、専門職が地域に出向き、地域の料理教室や自治会との防災訓練、介護相談、健康相談等の地域交流を図ることで高齢者総合福祉施設としての働きを一層充実させ、法人の活動を地域へ根付かせていく。 2. 財政基盤の確立：居宅介護支援での新規利用者獲得、特養・多機能の稼働率95%以上の維持を図り、保険収入の安定化を目指す。居宅・小規模多機能・特養のそれぞれが協力し、連携をとることで各部門が力を発揮し、予算達成することで財政基盤の確立を図る。支出に関しても、内容を精査し、無駄な支出をなくし、収支の安定を図る。 3. 小規模多機能ケアの確立：利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。各部門が連携をとり、おひとりおひとりのその時々ニーズにマッチしたサービスを提供させて頂くことで、いつまでも「その人らしく」輝ける暮らしを支援していく。地域密着型ならではの施設と地域の垣根を超えた交流をケアに反映し、総合福祉施設として利用者、入居者皆様のニーズに対応できるよう軽やかに、かつきめ細やかな画一的ではない個別ケアを実践する。誰もが輝き、希望を見出せる取り組みへの挑戦を継続して行い、その経験を積み重ねていくことで、ケアの充実、進化を図る。 4. 人材確保と育成(研修)：今年度は心理的安全性が確保された職場をつくることを目標にする。お互いを認め合い、会話を重ねることで信頼関係を築き、チームで協力しながら学び合い、成長できる組織を目指す。そうすることで人材の定着率向上を図り、ひいてはケアの質の向上、利用者・入居者の方々の満足度向上に繋がるようにしていく。また、研修計画を作成し、それに則って、スタッフそれぞれのレベルにあった研修を受講できるシステムを構築する。施設内でも勉強会を開催することで、自己研鑽を図り、自身の成長に繋げ、スタッフ間で教えあい学びあうことで切磋琢磨し、介護職としてだけでなく人としても成長できるような場にする。リーダー以上のスタッフは自身の後継者育成を意識してもらい、将来を見据えた人材育成、組織作りを行っていく。 人材確保に関しては、可能な限り実習生・研修生の受け入れを行い、且つ、各種学校へアプローチすることで新卒採用に繋がるような働きかけをおこなう。			

事業計画

2021年度

施設	オリンピア神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	平山 陽三
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフの確保と資質向上 4. 地域の拠点作り				
事業計画					
1. その人らしい暮らしの実現:ノーマライゼーションの理念に則り、一日の利用定員の範囲内で、少しでも多くの方を受け入れる。通い、泊まりのサービスだけでなく、訪問サービスにも力を入れ、利用者に合わせて支援し、自宅での生活の継続に努める。ご本人の要望だけでなく、ご家族の希望も取り入れ、安全安心な暮らしができるよう、スタッフはチーム一丸となって関わっていく。					
2. 財政基盤の確立:収入目標79,162千円。法令遵守の上で、登録者数を29名確保し、安定した収入の確保を目指す。各種加算の算定対象となるように、スタッフの確保、継続勤務に繋がる体制作りを行う。					
3. スタッフの確保と資質向上:リーダーを含め、資格要件を満たした人員を十分に確保する(年間3名採用予定)。研修計画に基づき、内部・外部研修を通して、ケアの標準化及びスタッフの資質向上を目指す。 神戸市主催の認知症研修や毎月行われる多機能連絡会主催の研修等に参加する。					
4. 地域の拠点作り:地域の行事にスタッフだけでなく利用者も参加し、繋がりを深めていく。衛生管理を徹底した上で、多くの地域の方々が訪れることができる拠点を目指し、開かれた相談窓口として地域に貢献していく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピア神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	横山 佳史
事業目標	1. 入居者主体の支援 2. 財政基盤の確立 3. 人材確保と育成(研修) 4. 地域との関り				
事業計画					
1. 入居者主体の支援:オリンピアの理念である、パーソンセンタードケア、ノーマライゼーションを遵守し、入居者目線でひとりひとりのその人らしい生活を送ることができる支援を行う。また、心身のニーズを把握し、明るく過ごしやすい生活空間の提供と、生きがいを持って暮らせるようその支援に努める。					
2. 財政基盤の確率:年間稼働率99%を目標に、安定した収入を得られるよう努める。入院者を極力出さないよう、介護、看護と協力し入居者の体調の変化に注視する。空床が出た際は、ショートステイ確保に迅速に対応を行う。また、入居申込者の確保も行い、退居者が出た際は早期に入居して頂ける体制を整えておく。					
3. 人材確保と育成(研修):常勤1名の確保。人材確保もだが、リーダーになりうる人材を育成する事に尽力する。スタッフ全員が介護職としての自覚のもと、自らの介護観や価値観をスタッフ間で共有しお互いに成長できる環境作りを行う。また、個々の能力に応じた研修を受講し、資質向上を目指す。					
4. 地域との関り:地域に開かれた施設として、社会資源との連携をとり、より充実した福祉施設になるよう努める。また、地域活動に積極的に参加し、交流を深め地域の相談窓口となれるよう貢献していく。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	富松 晃子
事業目標	1. 地域の相談窓口としての役割を担う 2. 在宅支援を他部門と連携して行う 3. 財政の安定 4. 人材育成と資質の向上				
事業計画					
1. 地域の相談窓口としての役割を担う:コロナ禍で地域交流の場が減少していますが、地域住民の相談に迅速に対応しその人らしい生活、暮らしが送れるよう質の高い支援を行います。（主に神戸市西区・明石市）					
2. 在宅支援を他部門と連携して行う:圏域の地域包括支援センターをはじめ、保険・医療・福祉の関係機関や民生委員等との関わりを持つとともに、法人内の横の繋がりを活かし、社会福祉法人光朔会の一事業所として架け橋を担い、フォローアップしていく。					
3.財政の安定:2名体制を確保し、業務内容を充実させ、安定した稼働率を実現し、収入確保出来るようにします。					
4.人材の育成と資質の向上:事業所内の会議の充実(不満や苦情への迅速、適切な対応・困難ケースの共有・秘密保持、個人情報への取り扱い、倫理、マニュアルなどの見直し等)職員の意識向上を図る。					
予定)。研修計画に基づき、内部・外部研修を通して、ケアの標準化及びスタッフの資質向上を目指す。					
スキルアップに繋げ、ケアマネジメントに活かしていきます。					

社会福祉法人光朔会

施設	都児童館	報告者	館長 森下洋子
事業目標	1. 児童の健全育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ) 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上(研修) 6. 安全管理の徹底		
概要			
オリンピアの理念を軸として利用者ひとりひとりの居場所となる場を提供し、児童館の担う役割をしっかりと果たしていく。			
親子プログラムを通して、母親の居場所づくりと仲間づくりの拠点となるよう配慮し、継続利用に繋がるようにする。			
放課後児童クラブにおいては、児童館と六甲学童保育コーナーそれぞれの環境的特性を活かしていく。			
また、個々の特性を尊重し、学童という集団生活の中で社会性を培うことができるよう子どもたちを見守っていく。			
コロナ禍にあっても、安心して参加できるプログラムを提供する。保護者との信頼関係をどの職員も構築できるようにする。どのような状況下にあっても地域との連携を大切にしていく。そして、職員全体の根本的意識向上を図る。利用者、職員が安心して過ごせるように安全管理を徹底して行っていきたい。			
事業計画			
1. 児童の健全育成			
・遊びや行事を通して異年齢児や地域の方との交流を図り、その中で集団モラルを学べるように支援する。			
・安全を第一に、子どもたちの居場所づくりとして、積極的に職員が遊びに関わり個別的・集団的に支援していく。			
また、「生きる力」が育つようにひとりひとりを尊重した見守りをしていく。			
・交流行事、季節行事、月行事等、その時々状況に合わせ、安全に配慮し、工夫した中で楽しさを提供する。			
2. 子育てと家庭の支援			
・子育て支援、母親の居場所づくり、仲間づくりの拠点となるように下記の事業を実施する。			
＊すこやかクラブ＊キッズクラブ＊なかよしひろば(赤ちゃんタイム・一歳児タイム・ママ向けのプログラム等)			
＊母親対象講座＊親と子のふれあい講座＊子育てコミュニティ育成事業			
3. 放課後児童の健全育成(放課後児童クラブ:学童)			
・家庭的な雰囲気の中で集団生活の規律を守り、ひとりひとりが協力・寛容・自立ということを理解できるよう支援し、児童の健全な育成を図る。また、色々な場面で想像力を働かせることができる(行動に伴う結果予測)ようにし、安全を図る。			
・合同お誕生日会や合同お楽しみ会、児童館行事等への参加を通して、子どもの心と体の健康を図る。			
・長時間学童で過ごす子どもたち個々の心のよりどころとなる支援に加え、保護者が安心できるように配慮していく。			
4. 地域への貢献			
・地域の方の活動に積極的に参加し、お互いの理解を深めると共に、子育て支援、家庭支援に繋がる地域社会を目指し、異世代間で楽しめるプログラム(コミュニティ事業)を年間を通して実施する。			
5. 職員の資質の向上(研修)			
・オリンピアの理念を軸に利用者に対して個を尊重した対応をし、自ら責任ある行動をする。			
・各種実施される研修に参加し、職員の資質の向上を図り、職員の自信に繋がるよう配慮し、更なる成長を促す。			
また、放課後児童支援員認定研修の受講資格が満たされた職員は必ず受講する。			
6. 安全管理			
・感染症予防対策、防犯・防災対策等日頃より周知徹底を図り、利用者及び職員の安全を確保できるようにする。			

施設	障害事業部門	報告者	センター長 細田 尚誉
事業目標	1. 障害事業部門の連携の確立 2. 人材の育成と確保 3. サービス事業の拡大と利用者様獲得 4. 地域ネットワークの構築と啓発活動		
概要			
2021年度は障害事業部門にとって10年目の節目に当たる年となる。就労継続支援B型を2箇所、生活介護、共同生活援助と計4事業を展開しており、現在の施設を中心により多岐にわたり支援の幅を広げていく年にする。 これまで築き上げた取り組みを確固たる土台とするために、改めて見直す機会とし現在の状態を徹底した検証を行うことが必要である。『利用者様の持てる力を最大限に引き出す』現状の在り方が利用者様にとって本当の支援となり、携わる事が出来ているか考え、より新しい可能性を見つけることが求められる。 継続的な安定した環境を守る為にも、新しい人材を育てることと、地域に根付いた運営が取り組めるようにより積極的に地域交流、イベント参加を行い啓発活動の中心となれるよう取り組む。			
事業計画			
1. 障害事業部門の連携の確立：就労継続支援B型、生活介護、共同生活援助の各部門間にはまだまだ関わりが持てる環境があり、新しいサービスの展開を含めて大きな括りでの包括的な支援を行うことが出来るように、事業連携の充実を図り部門全体での情報の共有や支援計画の把握を行い、複数サービスの併用が出来る環境を構築し長期的に支援に携わることの出来る運営に当たれるよう取り組む。 2. 人材の育成と確保：現在の障害事業部門での支援の在り方は個別支援計画があるようにマニュアルに沿った対応だけでは通用することがなく、常に多くの情報を収集したうえで考え、判断し行動しなければならない。 そのためには多くの経験を積み重ねていく際に明確な課題を抽出し的確に取り組むことが必要となります、より多くの研修や講習を積極的に参加できる体制と各々に必要なステップアップとなるものを提供できるように、定期的な面談も継続的に行って遣り甲斐と喜びのある組織づくりをしていき人材確保を行う。 3. サービス事業の拡大と利用者様獲得：就労継続支援B型においては定員以上の契約利用者様が在籍しているが、日々の利用状況の確保が課題であり、共同生活援助では部門事業所利用者様の中で今後の利用希望や利用計画を考えている方も継続的に出ている状況である。定員に満たない生活介護と総合的に考えて女性専用グループホームや居宅介護、行動援護や施設外就労場所など総合的に包括的な支援を提供する機会があり、これからにおいて長期的に段階を踏んだ支援を行い利用者様の安定した生活環境を構築していく。 環境の変化による大きなストレスを利用者様に与えることなく幅広いサービスを提供出来る事が安心した居場所となり新しい利用者様の獲得に向けた大きな一歩となる様に取り組んで行く。 4. 地域ネットワークの構築と啓発活動：コロナ禍など環境の変化があり多くのイベントなどが中止となり、年間行事を含んだ地域との交流の機会を多く失った。このような状況が長く続くことで今まで築き上げた繋がりが希薄になったように感じ取られている。もう一度地域との交流機会には積極的に参加し、障害事業の取り組みに関して周知して頂ける様に取り組んでいく。また利用者様にとって社会交流の機会は多くなく、ここで啓発活動の拠点となる取り組みは利用者様にとっての活動目的や社会交流に対しての意識を高める機会となり行動意欲に繋る。 普段から利用者様の生活環境である場所で、ノーマライゼーションのもと地域の発展に貢献出来るように取り組むことが利用者様に対してできる支援であると考えている。			

事業計画

2021年度

施設	オリンピック岩屋	部門	就労継続支援B型	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 就労移行支援 2. 職員の質の向上 3. 障害事業部門間の連携				
事業計画					
1. 就労移行支援:利用者様の作業に対する姿勢がとても前向きな中、就労継続支援A型や就労移行支援、就職という結果に繋げるために、現在 地元企業と連携して取り組めている菓子製造を段階的に施設外就労の場所として健康面や精神面の向上、工賃のアップなど次のステップの目標を設定して支援できるようにしていく。 このような環境を作ることで利用者様の可能性を広げ、利用者様と社会との繋がりを展開していく。 2. 職員の質の向上:利用者様に対する各障害の理解や知識を深めることで現在の支援の見直しを改めて行い倫理観、専門性の欠如や職員のスキル・経験に依存してきた支援などが無いように、外部からの講師を招いたり定期的な勉強会、研修への参加を積極的に取り組んでいく。 3. 障害事業部門間の連携:職員の入れ替わりが継続的に続いてしまったことによる、利用者様への支援の分断が今後起きないように、再度 部門間での連携を強化し職員の異動の際であっても継続的に個別支援の対応が取れるよう定期的なヘルプを互いに行い情報の共有や異なる着眼点からによる互いの問題点の抽出をすることが、事業所のサービス向上に結び付いていく環境となる様に取り組む。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピック住吉	部門	就労継続支援B型	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 個人支援計画の向上 2. 利用者延べ数の確保 3. 地域での障害者支援の啓発 4. 法人内連携による作業強化				
事業計画					
1. 個人支援計画の向上:従来の環境と異なった一年間を過ごしたことで、次のステップに動けなかった利用者様がいることを踏まえ本人の意思を再確認し、利用者様自身が積極的に意欲の持てる環境を展開できるように改めて多種に亘る軽作業への取り組みと施設外就労としての清掃を中心に行っていく。					
2. 利用者延べ数の確保:在宅支援も含めて通所利用者様の減少に繋がっている環境の改善を第一と捉え、年間行事を定期的に開催する事と岩屋同様に土曜日開所を行いサービス提供できる日数増加に取り組む。予定を明確にすることで利用者様とご家族に安定した環境の提示にもなり、より継続的に活用して頂ける事業所にする。					
3. 地域での障害者支援の啓発:区としては関連事業所を含めたネットワークが強い地域であることをもっと活用して周知活動や連携以上に啓発活動を目的としたイベントへの参加を積極的に参加する。					
4. 法人内連携による作業強化 : 現在の感染症対策による環境から止まっている、高齢者施設への清掃作業や部門内での合同農作業などを予防体制を充実させて協力体制を取って、再度 復活出来るように準備段階を始め、月間作業として定期的に行う。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピック長峰	部門	共同生活援助	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 包括的な支援の向上 2. 居室の増室 3. 部門間による支援の連携				
事業計画					
1. 包括的な支援の向上:介護サービス包括型としての課題としている、日中の施設滞在利用者様に対する支援の確立をする。土曜日、日曜日を含めた日中の支援に対して自立を目的とした個別の支援を具体的に明確化し、より細かな相談支援を行い利用者様の持てる力を最大限に引き出す環境を作る。 2. 居室の増室:感染症対策の対応のための隔離用居室の継続的活用も考え、スタッフ利用の部屋を利用者様の居室として増室する。従来の体験用居室も含めて今後の体験の受け入れとショートステイの受け入れを行う。 又、利用者様の高齢化や立地条件上で継続的利用が不可など今後の利用状況に変更が予想される利用者様に対する支援も高齢者施設と連携を持って取り組んで行く。 3. 部門間による支援の連携:現在の立地条件から送迎を取り入れたサービスも視野に入れ、生活介護の事業と連携を行い日中の施設の活用も踏まえたサービス内容を図りより総合的に利用者様の生活環境の充実を目的とした支援プログラムを構築していく。スタッフには連動した支援を行えるよう部門内での連携はもとより、関連事業所との支援内容の共有を徹底した取り組みを行う。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピック住吉東	部門	生活介護	報告者	細田 尚誉
事業目標	1. 利用者様支援の向上 2, 送迎を含めた新規利用者様獲得 3. 法人内での支援体制の強化 4. 財政面の安定した運営				
事業計画					
1. 利用者様支援の向上:生活介護という特性もあり同一空間になると不安定となる利用者様もいることから、個別の対応を取る必要性もある。より一層倫理観や専門性の必要性があり、現環境を考慮した上での支援プログラム の構築と臨機応変な対応能力の向上を目的とした講習や研修を積極的に取り組んでいく。 2. 送迎を含めた新規利用者様獲得:送迎用の車両の確保ができており運営規定の変更の準備も出来ていることを踏まえ、全日通所の難しい利用者様や肢体不自由な障害をお持ちの利用者様に対する支援環境の拡大を視野に入れた広報活動と関連事業所との連携による紹介を持って新規利用者様の獲得に繋げる。 3. 法人内での支援体制の強化:現在の利用者様の土曜日、日曜日の様子や通所時の様子など日中の施設での活動状況と異なった側面の情報を得るために関わることの出来る環境必要である。居宅介護や行動援護など今までにないサービスを提供できる環境も作る事で、全体的に一貫性を持った支援に取り組める体制としたい。 4. 財政面の安定した運営 : 利用者様の増加が見られない中スタッフは充足しており、支援レベルの向上によって対応できる利用者様の増加によるバランスを上げることで適正な人件費とする。					

社会福祉法人光朔会

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	施設長 前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 各種講演会やイベント開催 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す		
概要			
サービス付き高齢者向け住宅の入居条件としては60歳以上の方で非該当の方から要介護・認知症の方等、これまで自宅で不安を抱えて生活を送って来られた方々に対して、生活の質はこれまで通りのライフスタイルを続けて頂き、利用者の方が不安な部分に対しては24時間の見守りや状況把握、生活支援サービス及び食事や家事等の支援により、その人らしい生活を送って頂く。外出同行サービスや趣味等の活動に参加して頂き、豊かな時間と安心した暮らしを提供する。訪問介護事業所・通所介護事業所を併設し、オリンピアで培った質の高いサービスを、住宅部門は基より地域の方々へも提供していく。コロナ禍で地域との交流を図ることが難しい状況だが、地域での知名度・評判のアップを目指す。			
事業計画			
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらないライフスタイルを継続していける様に入居者のお一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしのお手伝いをする。入居者の皆様に「鶴甲を選んで良かった」と思ってもらえる様に安心出来る生活環境を提供する。 2. 財政基盤の確立:利用者の皆様の「安心してこれまで通りの暮らしを続けたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要がある。常時利用者の方に生活して頂ける状態を維持していくために、入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも速やかに新しい方が入居出来る様、入居希望の待機者獲得に努める。収支の状況も的確に把握していき、収入と支出のバランスを取っていくことで、コストを意識し収益の確保を目指す。 3. 各種講演会やイベント開催:各種講演会やイベント開催を定期的に行い、近隣地域の方へ様々な情報を鶴甲から発信することで、入居希望の待機者及びデイサービス・ヘルパー利用者の獲得に繋げる。 4. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整え、入居者の方に安心して生活を送って頂くために、日常の生活は基より、定期点検にも細心の注意を配る必要がある。また、安全への配慮・対策として平素から火災発生の防止に万全を期し、防災関係設備・機器の整備点検を十分に行い、年2回の避難防災訓練を実施し、消防署・地域の協力を得て利用者の方の安全対策に努める。非常災害時においても最大限に利用者の方の安全を図るとともに、地域の防災拠点としての役割を担っていく。			

事業計画

2021年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	サ高住	報告者	前埜 久男
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す				
事業計画					
1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送って来られた生活と変わらない生活様式を継続していける様に入居者のお一人おひとりに寄り添ったサービスを提供し、「その人らしい」暮らしを支援する。入居者の皆様に「鶴甲を選んで良かった」と思ってもらえる様、安心出来る生活環境を提供していく。					
2. 財政基盤の確立:利用者の皆様に「安心してこれまでの暮らしを続けていきたい」というご要望に応えるためには、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室満室の状態を維持していく必要がある。入退居の状況を見極めていき、退居者が出た場合でも速やかに新しい方が入居出来る様、入居待機者の獲得に努める。収支の状況も的確に把握し、収益の確保を目指し、自費サービスにも対応していく。					
3. 安全で安心して生活出来る住宅環境を目指す:快適な生活環境を整え、入居者の方に安心して生活を送って頂くために、日常の生活は基より、定期点検にも細心の注意を配り、危険箇所等が無い様に建物の維持管理を行っていく。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2021年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ホームヘルプ	報告者	下地 正樹
事業目標	1. オリンピアとしてのケア追及 2. 人材確保・育成。				
	3. 財政基盤の確立 4. 広報活動の強化。				
事業計画					
1. オリンピアとしてのケア追及:利用者様 目線で 利用者様の声なき声を認識し、パーソンセンタードケアを実践していき、その人らしい尊厳を持った暮らしを続けられるよう ケアを実践する。					
オリンピック鶴甲のヘルパーに頼めば安心、何とかしてくれるの声を 大切にし期待に応える。					
2. 人材確保・育成友達紹介で ヘルパーが確保できましたが 曜日によっては 十分に対応できなかったり、コールや問い合わせに 充分対応できていません 人材確保に努めます。修道院の日曜遅番獲得が課題。					
採用できた人財をホームヘルプとして又 サ高住としての 対応への教育を進めます。					
3. 財政基盤の確立:人財を確保したうえで、利用者様のご要望や コール対応に柔軟に答えることで、					
自費などの、対応を増加させる。いろいろな介護経験者の 意見を取り入れながら ケアの質の向上を図り、					
対応の幅を広げるとともに ヘルパー自身の技能レベルアップを図り 高品質なケアを実施する。					
4. 広報活動の強化:地域や医療介護連絡会に出席し 病院の地域連携室や居宅会議事業所に					
オリンピック鶴甲の ファンを増加させるような PRをする。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	渡部 倫成
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
1. 財政基盤の確立					
利用者数を上限数にすることを目標として、あんしんすこやかセンター、居宅介護支援事業所の訪問を続け、新規利用者獲得に繋げる。好評である音楽療法や食事イベントを継続して行ってい、少しでも多くのアピール方法をチームで思案し実行することで収益を上げていく。					
2. サービスの質の向上					
スタッフひとりひとりがオリンピアの理念をしっかりと理解及び把握をして、それに基づき利用者様のニーズにお応えできる体制を整えていく。					
3. 人材の確保・育成					
利用者様の思いをいつでも受け入れられる体制をつくり、利用者様が望まれるであろうことをスタッフ全員が考えずすんで行えるような組織にし、互いに成長サービスの質を高めていけるよう人材育成を図る。					

施設	グループホームオリンピア篠原	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1.「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 人材の育成 4. 財政基盤の確立		
概要			
7年目を迎えるオリンピア篠原は4月に指定更新を行い、開所からの取り組みを見つめ直し、更なる一步を踏み出す年となる。「認知症ケアの拠点」「地域交流の場」として、地域に根ざしてきたが、更なる「情報発信の拠点」となれるよう力強く推進する1年とする。昨年来のコロナ禍において「新しい生活様式」が求められるが、住み慣れた地域で継続的に生活し続けるため、地域に出て行き、地域の方々を迎える相互交流を継続的に行っていく、地域社会から必要とされる存在で有り続けることで、ノーマライゼーションを実現していく拠点となる。また、スタッフの必要とされる研修だけではなく、自発的な研修参加を全スタッフが受講し、個々のスキルアップを図っていき、安定した人材の確保、安心して働ける環境作りを目指す。			
事業計画			
1.「認知症ケア」の確立:「オリンピアの理念」「3つの約束」をケアの礎とし、パーソンセンタードケアを基本とした根拠あるケアを実践する。スタッフ一人ひとりが認知症ケアを実践していくと同時に、指導していくことが出来るスタッフの育成を目標とする。今年度もオリンピアの認知症ケア、個別ケアを理解し、実践していくことで、地域の認知症ケア、高齢者ケアの拠点となる。			
2. 地域密着の浸透:昨年来のコロナ禍において「新しい生活様式」を模索し、地域との交流の機会を再び増やしていく。地域の祭り等行事が再開された時には積極的に参加していく。また、町内会、自治会活動にも積極的に参加し、地域の一員として、協働していく。入居の相談、高齢者介護や認知症ケアの相談窓口として、地域の交流の場として気軽に来て頂けるように解放し、地域の中で最期まで安心して暮らして頂けるよう、お手伝いさせて頂く。			
3. 人材の育成:新規の人材を確保するために、定期的な広報を行うと共に、将来を見越して実習生、研修生の受け入れ、中学・高校生の介護体験の受け入れ等を積極的に行う。正職、パート職関わらず全職員が、それぞれの経験、スキル、希望に応じて意欲的に取り組むシステムを作る。職員は各自が課題を抽出し、研修計画を立て、法人内外関わらず、年1回以上は研修に参加し、レベルアップを図っていく。また、中堅職員は、新人職員の育成を行うOJTの教育係を行いつつ、自分自身のスキルを見直す機会とする。また、ユニットリーダー以上は次のリーダー候補を育成するための準備を日々行っていく。			
4. 財政基盤の確立:報酬改定の今年度は、迅速な情報収集を行い、介護保険制度をきっちりと理解した上で、安定した収入の確保を目指す。また、適正な支出で運営することが重要であることには変わりはない。収入に関しては1年トータルで考えて、高い平均稼働率のキープを目指す。入退院、退居による空室は毎年起こりうることで有り、空室期間をいかに最小限にするかが課題となる。新入居者に早く入って頂くため、待機者を常時複数名確保する。日々の入居者、入居待機者の状況の把握に努めていく。また、保険外の事業として、入居者様の希望や夢の実現のため体制を整え「これまで通りの生活のお手伝いをさせていただく。」と言う理念に沿った取り組みを数多く実現していく。目的をしっかりと持った保険外プログラムの実現により、入居者様の満足度向上と収入の安定に繋げていく。			